

熱海市 伊豆山地区協議会 WS資料

【Aグループ、Bグループ集約】

開催日 分類	H27.3.10地区協議会 課題	H27.5.20地区協議会			H27.10.28協議会	
		県・熱海市からの意見	解決策	短期的対策 2～3年	中期的対策 10年以内	長期的対策
堤防整備	伊豆山港からの浸水が避難路に及ぶ	(県) ・地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する堤防の整備を検討できる。 ・堤防の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができる。	堤防不要 堤防の高上げは不要 景観重視 陸間必要 伊豆山港入口に陸間があった方がよい 防潮ゲートは必要 (湧水)伊豆山港入口に防水壁を設ける 津波遡上対策 伊豆山港と市道用の防潮堤 船を止める 港入口に防潮堤を作る 水門・堤防整備 (7.0m以上) 海側に水門と防潮堤のカサ上げ 堤防の延伸とカサ上げ 遠隔操作できる津波防護壁を作る 川の水門整備 避難で対応 13mの津波がくれば、ソフトで高台避難			(県) L1津波による最大浸水が、民家等がない伊豆山港内及び沿岸部に限定されるため、堤防、水門整備は困難
浸水	逢初川から津波が上がってきた。どこまで逃げたいのか	(市)・ハザードマップの作成	浸水域の表示 海抜表示だけでは危ないかわからない 避難 川から離れる	(市) 逢初川は急流であり遡上の可能性は低い。想定浸水域外へ逃げる必要がある(目安:海抜10m以上) 注意:想定を超える可能性はあり		
がけ崩れ (急傾斜地)	ガケくずれ 山くずれ!!対策強化を! 伊豆山は津波より山崩が予想される。 その事の対策が示されていない事。不安。 急傾斜地崩落(水葉亭の下) 土砂崩れも心配	(県)(市) ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指警戒避難体制の整備	整備	(市) 市道沿いの小規模な崖地の保全対策	(市) 一定規模以上の崖地の保全対策としては砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業でを行う	
ライフライン	遅くなると暗くなるのが心配である 停電した場合、足元が見えにくい 道が暗くないか 停電で暗い		街灯設置	(市) LED防犯灯を補助制度を活用し町内会で設置 現在約40基 とりかえ済 残3分の2有(町内)2年くらいでやる 走り湯まで観光として照明を整備 ポンプ場の明かり	(市) 避難路用ソーラーパネル街路灯の設置	横断歩道橋の補強・整備
避難場所 (避難ビル)	さがみPの入口が混む 市の浄化施設ビルに逃げようとしたが閉まったまま ホテルが避難者で一杯になるのが心配である キャバ不足 避難場所が遠い 階段が狭い(ニューさがみや) 中田屋さん、木造で不適 500人が集まれる(逃げられる) ポンプ場外階段に上がれない(カギ)、階段が急傾斜地側 避難ビル1か所での心配		歩道橋整備 避難タワー ポンプ場の活用 歩道橋の活用 備蓄	(市) 橋脚に津波波高の強度が算定されていないので補強の必要性の検討 (市) 通常時の立入りは禁止、避難時のみ立入り可とすることを検討 (市) ガイドラインに基づき指定をしており、伊豆山に新たに該当する施設はない。 (市) 間に合わない場合には、指定が無くても頑丈な建物への避難は有効。 (市) 命を守ることが最優先(津波危険は長期続くことはない)		
避難路 (急な坂道) (交通障害)	人が殺到して転倒が心配 高台に上がるルートが少ない 人々がパニックで動きがとれない 避難路が狭いの危険 祭りに参加した人達が、狭い道路に集中する事 避難路が混まないか 出口の狭さが心配である 避難通路に人が集中しないか 避難路の状態 階段巾不足 避難路の勾配が急なので、高齢者には? 斜面に上がるのが大変である 坂が急 避難してきた車が逃げてくる 車の事故はないか 階段が急、崩落危険(走り湯)、海もダメ、山もダメ 坂道が一番強い 橋の補強が必要 走り湯の階段は、ガケ崩れが起きた場合使用できない 避難路が川沿いの道しかない 階段が暗い(夜間) 大人数が避難するのに階段が狭い 階段が狭い 観光客、避難に誘導が必要		避難路拡幅 港の整備 耐震診断 避難路表示 避難路の整備(情報) 避難路の整備(通路)	樹木の管理・伐採(個人) 放置物の撤去(個人) (県) 船固定 漁協に相談 (市) 通行途絶が予想される箇所の調査 (市) 津波避難は高いところへ逃げるのが基本。斜面地には避難経路は示していない。 (市) 通行途絶が予想される箇所の調査 3ルートとも 崩れる所はどこか どこを優先して整備するか ガケの調査 倒木 (市) 避難路経路を分散し避難時間を短縮するための案内・誘導標識の設置 照明調査 避難路の街灯整備 ポンプ場からさがみやにかけて街灯がない 港の照明の整備	(市) 伊豆山港みどりの広場からの避難道路整備 逢初川の橋の補強 3つの避難路を優先順位を付けて1つつ整備 鹿屋の処理 空き家の倒壊の危険の調査	(市) 災害時要援護者にも配慮した避難経路の整備
人的障害 (パニック)	避難場所の位置 観光客など大混乱。子供の逃げ場がない。 避難場所の確認を予め下見?(解決策?) 海岸通りから上への避難路がわからない 外からのお客さんが避難先がわからない 津波避難ビルはどこだった? イベント会場から避難する際のパニック(移動の集中) 高齢者が多い		避難訓練	(市) イベント主催者は、避難誘導について事前の確認が大変重要となる。 (避難で問題となるのは、観光客) (市) 地震直後から流入車両の通行遮断		訓練の継続
情報伝達	津波警報が出たのか情報がわからない 同行者と離れたので急いで名前を呼ぶ(解決策?) 無線が届かない(伊豆山全体使えない)		情報提供 通信手段	(市) 防災メール等の登録、個人でも情報入手 放送設備の整備 海岸地区の津波放送ができるようにしたい 情報伝達の協力 リゾートマンション LEDの情報板 津波表示板を整備 サイレンの設置(市防災室発) 海岸一帯への防災無線 停電でも連絡可能な通信 ケータイの災害情報活用(電波の改善) MCAの導入 無線	(市) FM熱海、携帯電話(メルマガ含む)、テレビ等からの情報入手	(市) 防災行政無線デジタル化による、難聴地域の解消
住宅が心配	県営住宅(築40年)心配 津波より家が心配	(県)・県営住宅は耐震診断済みで 七尾団地は対策不要 (県)(市)・TOUKAI-Oによる支援				